

メッセージ 2

医者また花婿としてのキリスト

聖書：マタイ 9:10-13, 15. 啓 19:7-9

I. マタイによる福音書は、キリストが宗教に相対していること、またキリストに関する事は宗教の外にあることを啓示しています：

- A. キリストの誕生、キリストを見いだすこと、キリストを推薦すること、キリストに従って行くことなどは、みな宗教の外にありました——マタイ 1:18-23. 2:1-12. 3:1-12. 4:12-22。
- B. 宗教において奇跡的に事を行なおうと考えるどのような事も、悪魔の誘惑です——5-7 節。
- C. 医者また花婿として、キリストは宗教に相対します——9:12, 15。
- D. 主イエスは宗教的な伝統を顧みません。彼は内側の実際を顧みます——15:1-20。

II. マタイ第 9 章 10 節から 13 節は、わたしたちはキリストを医者として経験し、享受することができることを示しています：

- A. 王国のために彼に従うようにと人々を召すとき、主イエスは裁き主としてでなく、医者として仕えました。
- B. 裁き主の裁きは義にしたがっていますが、医者のいやしはあわれみと恵みにしたがついています。
- C. キリストは来て医者として仕え、わたしたちをいやし、回復し、生かし、救いました。それは、わたしたちが再構成されて彼の新しい天の市民となるためです。彼は彼らをもって、この腐敗した地上に彼の天的な王国を設立しつつあります。
- D. 「『わたしが望むのはあわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味なのか、行って学んでください」——マタイ 9:13：
 - 1. 主イエスはわたしたちの霊の病、罪の病をいやします。
 - 2. 罪と死の間に、各種の病、患い、弱さがあります。
 - 3. 主イエスはわたしたちの罪を赦し、またすべての面でわたしたちをいやします。
 - 4. 罪人として、わたしたちは完全に病んでいます。なぜなら、わたしたちは肉体的に、霊的に、道徳的に、精神的に、病んでいるからです。しかし、赦す方また医者であるイエスは、わたしたちのすべての病をいやすことができます。
 - 5. わたしたちの医者として、主がわたしたちをいやすのは、おもにわたしたちの霊において、また魂においてであって、おもにわたしたちの体においてではありません。
 - 6. 主はわたしたちの体においてわたしたちをいやすかもしれませんが、いやさないかもしれませんが、常にわたしたちの霊と魂のあらゆる部分において、わたしたちをいやす準備ができています。
 - 7. わたしたちの医者である主のいやしは、おもに肉体的なものではなく霊的なものです。彼は、わたしたちの霊的な病をいやす方です。
- E. パウロの後期の務めの中の経験は、信者をいやす医者としてのキリストに対する正しい評価を持つことを助けます：

1. II テモテ第 4 章 20 節後半は言います、「トロピモは病気なので、ミレットに残してきました」。
2. 使徒パウロは、そのような親密な者を病気のまま残し、彼のためにいやしの祈りをしませんでした。
3. パウロはまたテモテの胃の病気をいやすために、いやしの賜物を活用しませんでした（使徒 19:11-12）。むしろ、パウロは天然の方法を用いていやされるように指示しました（I テモテ 5:23）。
4. パウロはテモテに少しぶどう酒を飲むように勧め、トロピモはミレットに残してきました。
5. パウロは実に人間的な方法で彼の同労者たちを顧みました。
6. パウロがこういった方法で彼らを顧みた理由は、苦難の時に、パウロと彼の同労者たちは内なる命の訓練の下にいたからであって、外側の賜物の力の下にいたのではなかったからです。
7. 前者は、命における恵みから出るものです。後者は、力の賜物、奇跡的な力から出るものです。
8. パウロの経験は、今日のキリストのいやしがほとんど霊と魂のためであることを見るのに役立つはずです。
9. もしわたしたちがこのビジョンを見るなら、わたしたちはキリストに信頼し、彼を医者として経験するでしょう。

F. わたしたちの医者として、キリストはいやす権威を持っています：

1. 彼のいやしは単に力の事柄ではなく、権威の事柄です。
2. 彼はわたしたちをいやすのに、直接わたしたちに触れる必要はありません。
3. 彼はただ一言語る必要があるだけです。そうすれば、彼の権威は彼の言葉を伴ってきて、わたしたちをいやします——マタイ 8:8。
4. わたしたちの医者は彼の権威をもって、わたしたちをいやします。

Ⅲ. マタイによる福音書と啓示録では、キリストは花婿として啓示されています——マタイ 9:15. 啓 19:7-9：

A. マタイ第 25 章 1 節は、花婿としての主イエスについてのさらなる言葉です：

1. この節は、主が花婿として、最も喜ばしい引き寄せる方として戻って来ることを啓示しています。
2. 聖書は、キリストが具体化された神であって、花嫁を持つことを啓示しています。
3. ですから、キリストの身分は花婿の身分です。
4. 花婿として、彼はわたしたちの享受のための喜ばしい方です。
5. わたしたちは、主を命の回復のための医者としてだけでなく、彼が共にいるという生ける享受のための花婿として評価すべきです。

B. 啓示録第 19 章 7 節から 9 節は、花婿としてのキリストを明らかにしています：

1. これらの節は、主イエスが花婿としての小羊であることを啓示しています。
2. キリストは小羊と花婿の両方として提示されています。
3. ヨハネによる福音書において、キリストは罪を取り除くために来た小羊と、花嫁

を持つために来た花婿の両方として啓示されています。

4. 小羊は贖いのためであり、花婿は婚姻のためです。
5. 贖いは神の小羊としてのキリストによって達成されました。そして婚姻は、キリストが来たるべき花婿として彼の花嫁をめとる時に起こります。
6. キリストは花婿として婚姻を持たなければなりません。わたしたちの地位は花嫁の地位であり、来たるべきキリストの地位は花婿の地位です。
7. わたしたちは地上で花嫁となって彼に会うための準備をしており、そして彼は第三の天の御座で花婿としてわたしたちに会いに来るための準備をしています。
8. 彼は花婿として来つつあり、わたしたちは花嫁として行きつつあります——マタイ 25:1。

©2025 *Living Stream Ministry*